

南丹市立美山中学校

平成30年度「全国学力・学習状況調査」

分析・まとめ

平成30年11月
南丹市立美山中学校

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

南丹市立美山中学校

美山中学校では、生徒一人一人に、生涯にわたって学び続けることができる基礎基本の習得を図りながら、『夢や希望に向かって自らを高める美山っ子』を育成するために、一人一人の能力を引き出し、個性を伸ばす教育の推進に努めています。その進捗状況を図る指標の一つとして、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」の結果を分析し活用しています。

「全国学力・学習状況調査」(中3)では、中学校2年生修了段階までの国語、数学、理科の学力の定着状況を把握・分析することで、学習指導上の課題を明らかにするとともに、個に応じたきめ細かい指導方法の工夫や改善の充実に役立てることが目的です。

これより、その結果と分析についての概要をお伝えします。本テストでは、生活等についての質問紙調査も実施されており、その回答結果から、生徒の今の学習状況や生活の様子についても分析結果をお伝えしますので、学力との関連性やよりよい家庭生活に向けて、ご家庭で見直しを図っていただく機会の一つにさせていただければ幸いです。

1 今、求められる学びの姿勢(授業への臨み方)とは

本校では、全教育活動を通して、読解力・表現力の向上を図ることを目指して授業改善や行事の精選に取り組んできました。生涯にわたって学び続けるための基盤として豊かな言語力を含めた国語力向上のために、自分の考えや思いを相手意識を持ってわかりやすく伝えることが必要です。

そのためには、

- ・場にふさわしい声の大きさと、自分の意見を発表する。
(聞き手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力)
- ・根拠を明確にして自分の考えを筋道立てて構成していく。(まとめる力)
- ・言葉や言い方から話の内容をくみ取る。(聴きとる力)
- ・論理的な文章を読む。(長い文章を苦にせず根気強く読み解く力)

以上のことを意識して、今後も学習や行事等に取り組んでいきます。

2 「全国学力・学習状況調査」の概要について

対象学年	中学校3年生
実施日	平成30年4月17日(火)
科目・時間	国語A・B(各45分) 数学A・B(各45分) 理科(45分) 生徒質問紙(20分程度)
出題範囲	中学校第2学年までに含まれる指導事項
内容	[教科に関する調査(国語・数学・理科)] ○国語A・数学Aの問題 : 主として「知識」に関する問題 ○国語B・数学Bの問題 : 主として「活用」に関する問題 ○理科の問題 : 主として知識に関する問題 及び 主として活用に関する問題 [質問紙調査] ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する様子

3 本校の状況について

調査結果から、本校は京都府・全国の平均と比較して、国語、数学、理科ともに「高い」という結果であることがわかりました。

教科に関するそれぞれの問題数は次のとおりです。

国語	A : 32問	B : 9問
数学	A : 36問	B : 15問
理科	27問	

それぞれについて、全国平均正答数と本校平均正答数とを比較した場合、結果は右の表のようになります。

なお、「高い」の範囲は全国平均正答数との差が2問以上あることを示しています。

	全国平均正答数との比較
国語A	高い
国語B	高い
数学A	高い
数学B	高い
理科	高い

基準	- 2 問	0	+ 2 問
	低い	同 程 度	高い

4 各教科の概要について

今回の調査で対象となった、各教科の領域は以下のとおりです。

国語A・Bの領域	①話すこと・聞くこと ②書くこと ③読むこと ④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（文法等）
数学A・Bの領域	①数と式 ②図形 ③関数 ④資料の活用
理科の領域	①物理的領域 ②科学的領域 ③生物的領域 ④地学的領域

今回の調査では、国語A・B、数学A・B、理科の全ての領域で府平均・全国平均を上回りました。授業中に学習した基礎・基本となる内容が確実に定着していることが伺えます。これは、授業時の学習規律が確立していることや生徒自身の授業への意欲や真摯に取り組む姿勢が反映していると言えるでしょう。また、身につけた基礎基本となる事項や知識を活用して課題に取り組む分野についても1・2年生の時と比べると、成果が見られました。生徒たちの日々の学習や学校の授業改善も含めた学力向上の継続的な取組の成果と捉えています。

しかし、教科・領域別に考察すると、本校3年生の課題もあります。また、全教科で解答時間が足りないと回答した生徒がいることから、限られた時間内に読解、計算、思考・判断できる力を身に付けていくことも必要です。今後、さらに大きく力を伸ばしていくために、各教科で課題と考えている点をあげてみます。

(1) 国語A・B

全領域で、府・全国の平均正答率を上回りました。しかし、問題別に見ると、「文脈に則して漢字を正しく読み書きする」「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」といった点に課題が見られます。日常的に漢字を使って書こうとする姿勢、慣用句・ことわざの意味を理解しながら言語生活に生かすという態度、そして読書や新聞などから社会で一般的に使われている用語などの語彙を増やすことなどが求められます。また、「登場人物の言動の意味などについて考察し、内容の理解に役立つ」というように、丁寧に文章を読み取るという点についてもさらに習熟が必要です。

国語の学習内容には、授業中の理解だけでは定着しない事柄もたくさんあります。授業中に理解できたことを家庭学習で復習することによって、自分の知識として定着させるという時間を確保していくことが大切です。また、今回明らかになった課題は、一度学習しただけで簡単に身につく内容でもありませんので、こつこつ努力を継続させることも大切です。

(2) 数学A・B

全領域で、府・全国の平均正答率を上回りました。ただし、「関数のグラフの読み取り」などの関数に関する問題、「道のり・速さと時間の関係」や「荷物の個数と重さの関係」などの数量関係の問題に弱点が見られました。また、文章問題の意味を正確に読み取って、数字や数式で表すという面の弱さ、符号の間違いや思い込み・勘違いによる間違いなどのケアレスミスも見受けられました。

今後は、課題が見られた関数や数量関係についての基礎基本を復習し、文章問題の演習を多く取り入れるなどして改善を図るとともに、数学的な知識についても再度整理し直すことで既習事項を定着させます。また、身の回りの事象から、問題解決しようとする姿勢や、身近な幾何から課題を発見し、筋道立てて説明する表現力や論理的な思考力が身に付けられるよう、重点的に学習を進めていきます。

(3) 理科

物理・化学・生物・地学の全ての分野で、府・全国の平均正答率を上回りました。ただし、「無脊椎動物や軟体動物の体の特徴」「天気図の読み取りや理解」「ガスバーナーの使用方法」「神経系の働き」「原子記号」など、身に付けた知識を使って答える問題の正答率が低いという課題が明らかとなりました。また、「水溶液の濃度と質量の関係」や「電流・電圧・電力の関係」について、既習の知識とデータを活用したり、計算して答えを導き出す問題にも弱さが見られます。

今後は、自然界の真理について、自然現象や科学的な現象の仕組みについて、実験を通して理解することを大切にし、実験から得られるデータの分析などに重点を置いて、学習を進めます。また、既習事項を整理し、知識として定着させるための小テストや復習も行っていきます。あわせて、授業だけでは定着しない事柄については、授業で理解できたことを家庭学習で復習することによって、自分の知識として定着させるという時間を確保していくことも大切です。

5 質問紙調査について

本調査では、授業への臨み方、家庭学習への臨み方、学校生活全般、家庭生活全般等に関して、59項目の質問に生徒が回答しています。

本校生徒は、概ね全国や京都府と比較すると学習や生活に前向きに取り組み、日々の学校生活や家庭生活を肯定的に捉えようとし、まじめに落ち着いて過ごしているという様子がうかがえます。

各領域（国語・数学・理科・総合的な学習の時間などに対する関心等、学習習慣、生活習慣、自尊感情、規範意識など）とも、全国・府の平均を上回る結果となっています。

引き続き、学校生活の中でより自主的・より主体的な意識を持たせた様々な取組や学習活動を通して、学び合える学級集団を目指すとともに、よりよい生き方を選択できる力を身に付けられるようにしていきます。

肯定的な回答が多かった質問項目

- 学校の規則を守っていますか。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- 朝食を毎日食べていますか。
- 家で学校の宿題をしていますか。
- 1、2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。
- 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組

<p>んでいたと思いますか。</p> <p>○生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。</p>
<p>回答結果から改善の必要性（疑問・課題）を感じる質問項目</p>
<p>○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。</p> <p>○地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。</p>
<p>生徒質問紙から気になる生活習慣</p>
<p>【学習時間の不足（やっているが短時間に終わっている）】</p> <p>○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。</p> <p>【ゲーム、インターネットへの依存傾向】</p> <p>○週末に何をして過ごすことが多いですか。</p> <p>【活用能力の育成／学びの意義】</p> <p>○数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。</p> <p>○理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。</p>

◆結果を受けて、学校としてさらに充実させて進めていくこと

(1) 授業での取組【見通し(めあて)と振り返りのある授業】

評価計画を学期当初に提示し、何を学ぶのか、何をどう頑張ればいいのかを見通しが持てるよう考えています。

学習チェック表を提示し、テスト前に、テスト勉強の内容、方法、到達目標、評価規準をリストアップすることで個別に具体的な学習計画を立てて取り組むことをねらいとしています。自分で、「〇〇はできる、〇〇はわかる」という状態をチェックし、振り返りながらテスト勉強に取り組むよう指導していきます。

(2) 自学自習の習慣化への取組【自主学習ノートの取組】

「自主学習ノート」は、生徒の理解度や状況に応じて、生徒自身で課題を見つけ考えながら行うことで、より個人の課題に適した学習を行うことをねらいとしています。自主学習チェックシートなどを活用しながら、自己の学習を振り返り、その意義や効果を自分自身で実感しながら取り組めるようにしています。自分で学習の課題が見つけれない生徒には基本的なプリントや課題を与えながら、自学自習の習慣化へ繋がられるよう個別にも継続的に指導していきます。

(3) 家庭学習支援の取組

中学3年生を対象に、家庭で国語・数学・英語の受験勉強ができるように、それぞれの講義を収録し、ケーブルテレビで放映しています。講師は、南丹市立中学校（本校教員もこれまでに担当しています。）の各先生です。テキストは事前に配布しています。ぜひ、積極的に活用していただけることを望みます。

(4) 地域行事への能動的な参加・地域社会との積極的な関わり

行事や総合的な学習の時間に行う地域での体験学習（ふるさと学習）等を通して、生徒たちが、保護者や地域の大人の方々の温かい目や支援を実感し感謝の気持ちで受け止めていることは、事後の感想文などからもうかがい知ることができます。しかし、今回の質問紙調査では、地域や社会をより良くするための主体的な行動やボランティア活動への能動的な参加姿勢に課題があるという結果になりました。地域行事・ボランティア活動ともに参加さえす

れば、楽しんでいる様子や一生懸命取り組む姿が見られます。今後は、地域社会を支える一員としての自覚や責任感の醸成を目指した取組を工夫し、ボランティア活動等への積極的な参加をうながしていきます。

今後、生徒たちが主体性を発揮したり、授業や行事・取組などの活動を通して、仲間と協働して活動することの大変さや、やり遂げたときの達成感や充実感を味わうことができるよう、「学校へ行くのが楽しい」と思えるよう、毎日の授業を基本に学校行事・取組も工夫改善していきます。そして、個々の生徒の成長と集団としての質の向上を目指します。

また、総合的な学習の時間を中心に、地域のひと・もの・ことからの学びの機会の充実・推進を図ります。

6 家庭生活についてお願いしたいこと

(1)基本的な生活習慣の確立【早寝、早起き、朝ご飯】

就寝時間、起床時間、朝食の摂取、あいさつをする等、府平均と同等もしくは良好な結果を示しています。今後も大切にしていいただければ幸いです。

(2)ゲーム、スマホ・ネット等情報端末機器の使用に関するルールづくり【家族ルール】

スマホ・ネットは、効果的なツールとして今後ますます必要になってきます。ゲームも適度に楽しむ程度なら気分転換を図ることができます。しかし、健康、モラル、経済的な側面から、成長途中の生徒にとって、それらを使用するルールは必要です。

また、大人があるべき姿を子どもに示すことも大切です。そのためにも、家族みんなで使い方について話し合い、各家庭独自の「家族のルール」を決めていただければと思います。

(3)家庭での学習習慣の確立【毎日2時間の家庭学習】

生徒質問紙から、テレビ・DVDや情報端末に関わっている時間の多さが大変気になります。中学校の学習内容をきちんと身につけるには、学校での授業はもとより、家庭学習の2時間は欠かせないものだと考えています。

学校でも、学習ガイド等によって指導をしながら、教科でも課題等の出し方について工夫をしていきます。また、自主学習ノートの取組を継続していきます。

家庭学習の習慣化と質の向上、時間の使い方の工夫について、励ましやアドバイスをいただければと思います。

7 終わりに

今回の全国学力・学習状況調査では、「国語・数学・理科ともに高い」という結果となりました。

今回の全国学力・学習状況調査は限られた教科の現時点での結果であり、それは子どもたちの学力のほんの一部を表しているにすぎません。子どもの豊かな学びや育ちには、健やかな心と体の成長が欠かせないことは言うまでもありません。子どもたちが中学校での学習内容を十分習得することは、中学校卒業後の希望する進路を自分自身で切り拓くために極めて重要です。

そうした観点から、今回の結果を踏まえ、ご家庭でも今の子どもたちの様子について振り返り、お話しをしていただければと思います。

中学校としましても、今後さらに保・小・中の連携を深め、地域から信頼される学校・安心安全な学校づくりを目指し、充実した教育ができるよう一層努力してまいります。

保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。